

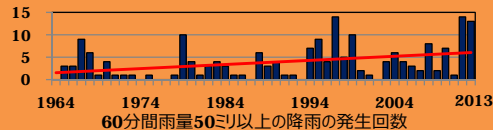
### 1.はじめに

- 近年、全国的に時間雨量50ミリを超える短時間強雨の発生件数及び日雨量200ミリ以上の大雨の発生日数が増加している。
- 関東地方でも平成27年9月の台風18号により、鬼怒川流域における一部の観測所において、観測史上最大となる3日間雨量600ミリを超える降雨量を記録するなど、長時間の大雨に伴う越水破堤（外水氾濫）による甚大な被害が発生している。
- 大阪府においても時間雨量50ミリ、80ミリ以上の短時間で局所的な豪雨の観測頻度が増加しており、今後の気象変動に伴う災害リスクの増大が危惧されている（「今後の治水対策の進め方」〔平成22年 大阪府策定〕）。
- 大阪府における近年の降雨及び水害の特徴を整理し、これに対する取組み方針についてとりまとめる。

### 2.大阪府における近年の降雨

#### ◆大阪府における近年の降雨の傾向

- 短時間（60分間）雨量
  - 60分間雨量50<sub>ミ</sub>以上及び60分間雨量80<sub>ミ</sub>以上の降雨の発生回数は増加傾向



- 長時間（1日）雨量
  - 日雨量200<sub>ミ</sub>以上の降雨の発生回数については、増減に明確な傾向はみられない

### 3.大阪府における近年の水害

#### ◆大阪府における近年の水害の現状

- 治水施設の整備の進捗に伴い、水害による家屋等の被害は減少している
- 外水氾濫被害に比べ、都市部の内水浸水被害が圧倒的に多い
- 都市部における内水浸水被害は、**下水道、水路及び流域面積の小さい河川の雨水排水能力を超過する「短時間強雨」により引き起こされる**



### 4.近年の降雨を踏まえた取組みに関する考え方

- 平成27年9月関東・東北豪雨のような治水施設の整備規模をはるかに上回る大雨への対策として、地先の浸水リスク評価や「逃げる」施策を確実に進めるべきである。
- 治水施設の整備など「防ぐ」施策については、「今後の治水対策の進め方」により設定した当面の治水目標の達成に向け、河川整備計画等に基づき、着実に推進するべきである。
- 大阪府で近年増加しつつある短時間強雨により発生している「都市機能や資産が集中する都市部の下水道、水路及び流域面積の小さい河川」からの氾濫被害に対しては、「防ぐ」施策、「逃げる」施策及び「凌ぐ」施策について幅広く検討し、対策を講じるべきである。
- 要対策地域や対策の優先順位については、外水氾濫及び内水浸水の両者を考慮したシミュレーション結果や浸水実績等に基づき、現況の浸水リスクを評価したうえで設定し、対策については、ロードマップを作成のうえ、市町村と連携して着実に進めるべきである。

#### ＜特に短時間強雨に効果的な対策＞

#### 「防ぐ」施策

- 短時間強雨対策は、洪水調節施設及び流出抑制施設の設置等を中心に検討
- 地下河川や流域調節池等の着実な整備の推進
- 下水道の増補幹線と一体となった効率的な施設の整備
- 10年に1回程度の大雨を対象とした下水道施設の整備
- 都市機能が集積した浸水リスクの高い地域におけるハード、ソフト対策を組み合わせた総合的な浸水被害軽減対策



調節池

#### 「凌ぐ」施策

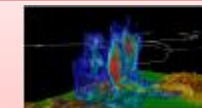
- 農林部局との連携による、都市部に残された「ため池」等の既存ストックの有効活用
- 都市計画部局等との連携による、浸水被害の軽減を視野に入れたまちづくり、土地利用の誘導



泉州地域のため池群

#### 「逃げる」施策

- 垂直避難等の適切な避難行動につながる防災情報の配信強化
- 河川の浸水リスクの高い箇所へのカメラ設置
- 水位上昇が急激な流域面積の小さい河川等の水位想定に向けた技術開発
- 水防法改正による水位周知下水道、浸水想定区域及び特別警戒水位の指定
- 外水氾濫と内水浸水の一体的な解析による時系列の浸水想定図の作成



フェーズド・アレイ気象レーダによる豪雨予測(出典:大阪大学)